

指導要録の評価・評定について

令和元年 11 月 東京都教育委員会「小学校児童指導要録の様式及び取り扱い」より

観点別学習状況

- ・小学校学習指導要領に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに評価し、A、B、C の記号により記入すること。この場合、
 - 「十分満足できる」状況と判断されるものを A
 - 「おおむね満足できる」状況と判断できるものを B
 - 「努力を要する」状況と判断されるものを C とすること。

評 定

- ・第 3 学年以上の各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領に示された各教科の目標に照らして、その実現状況を総括的に評価し、3、2、1 の 3 段階で記入すること。この場合、
 - 「十分満足できる」状況と判断されるものを 3
 - 「おおむね満足できる」状況と判断できるものを 2
 - 「努力を要する」状況と判断されるものを 1 とすること。
- ・「観点別学習状況」において掲げられた観点は、分析的な評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合において基本的な要素となるものであることに十分留意すること。その際、評定の適切な決定方法等については、各学校において定めること。

観点別学習状況の評定への総括方法

1. 学年末における観点ごとの総括および評定の方法

- 各学期の評定が同じ場合は、総括も同じに評価する。(例 B B B → B)
- A B A のように、評価結果が同じでない場合は、出現率の高いものを重視しつつ、学年の目標、学年の評価の観点の趣旨と照らし合わせ、その実現状況を総括的に評価する。
- C A B のように、評価結果が向上していった場合、A B C のように下降していった場合は、学習全体をとらえつつ、学年の目標、学年の観点の趣旨と照らし合わせ、その実現状況を総括的に評価する。

上記の点を踏まえながら、基本的に次の表のように総括する。

1～3 学期の「あゆみ」の評価	学年末観点別評価
A A A	A
A A B	
A B B	B
B B B	
B B C	
A B C	
B C C	
C C C	

学年末観点別学習状況	評定
A A A	3
A A B	
A B B	2
B B B	
B B C	
A B C	
B C C	1
C C C	